



📖 閲覧室

世田谷区の歴史・文化に関する資料や、他の自治体の刊行物をご覧になれます。



👥 集会室

各種講座・社会科見学などで使用します。また、区の郷土史、文化、文化財などに関する活動を行う団体に有償にてお貸しします。



📺 ビデオブース

「ポロ市のあゆみ」をはじめ、世田谷区の歴史・文化財についての動画をご覧いただけます。

📄 受付

入館票にご記入ください。展覧会図録、史料集・報告書などの書籍、地図などはこちらで販売しております。

🚫 歴史講座・野外歴史教室・こども向けワークショップなどを開催しています。詳しくは区のおしらせ・区のホームページをご覧ください。

世田谷デジタルミュージアム



世田谷区内の文化財や関連資料をデジタルアーカイブ化した、誰もが気軽に貴重な文化財に触れることができるサイトです。郷土資料館で収蔵している文化財もご覧になれます。

<https://setagayadigitalmuseum.jp/>

利用案内

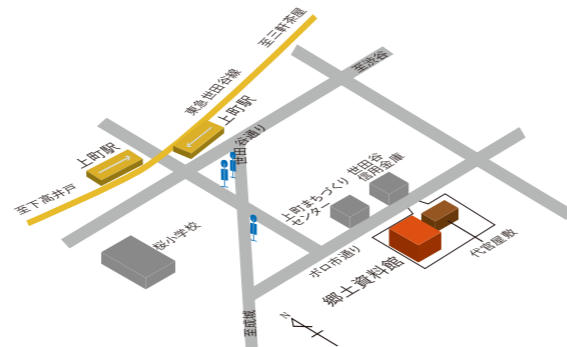
開館時間：午前9時～午後4時30分

「せたがやハタル祭り」と「サギ草市」(7月)と「世田谷のポロ市」(12月15・16日、1月15・16日) 開催日は、行事終了時刻まで開館します。

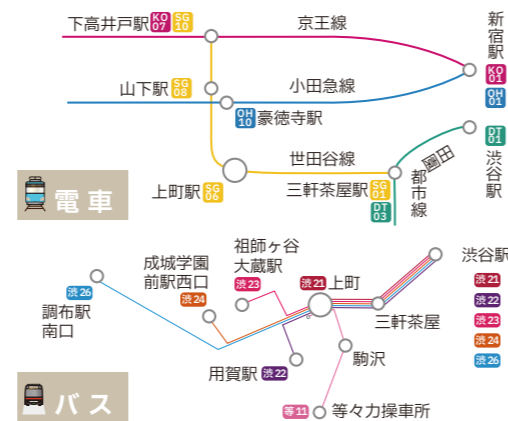
休館日：毎週月曜日 祝日(月曜日が祝日の場合は翌日も) 年末年始

入館料：無料

- ❖ 館内と代官屋敷は、全域飲食禁止・禁煙です。
- ❖ 展示資料には触れないでください。
- ❖ 館内でのフラッシュ撮影はご遠慮ください。
- ❖ 古文書などの閲覧や展示解説をご希望の方は、事前にお問い合わせください。
- ❖ 車椅子の貸し出しを行っております。ご利用の際は事務室までお申し出ください。
- ❖ 本館1Fに多目的トイレ(車椅子用、オストメイト・ベビーチェア完備)がございます。



🚶‍♂️ アクセス 電車・バスとも上町下車徒歩5分



世田谷区立郷土資料館

〒154-0017 世田谷区世田谷 1-29-18
TEL 03-3429-4237 FAX 03-3429-4925

世田谷区立郷土資料館



世田谷区立郷土資料館俯瞰図
(昭和62年 前川國男建築設計事務所)

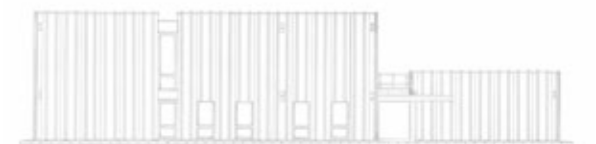
ようこそ郷土資料館へ

世田谷区立郷土資料館は、世田谷区制30周年記念事業の一環として、昭和39年(1964)9月10日に開館した都内最初の公立地域博物館です。その後、収蔵資料の増加に伴い、保管場所が手狭になったことなどから、昭和62年(1987)に新館を増築し、現在に至っています。

郷土資料館は、郷土の貴重な文化財を後世に受け継ぎ、区民の教養の向上及び教育、学術研究などに資することを目的に、世田谷区に関する歴史・民俗資料などを収集保管し、展示、講座の開催及び書籍の刊行などの形で広く一般に公開しています。

令和5年8月、設備改修工事による1年4ヶ月の休館を経て、常設展示の装いを新たに再開館しました。

郷土資料館をご利用いただくことで、世田谷の歴史と文化に親しみ、理解を深めていただければ幸いです。



最終氷期に生きたせたがやの人々

後期旧石器時代 約 38,000 ～ 16,000 年前

世田谷区内でも代表的な瀬田遺跡、下山遺跡、堂ヶ谷戸遺跡、廻沢北遺跡の石器を中心に各時期ごとに展示しています。



土器の登場とムラの暮らし

縄文時代 約 16,000 ～ 2,500 年前

形や模様、用途も様々な土器を中心に、むかしの人々の暮らしを想像できる道具を展示しています。



稲作の開始・ムラからクニへ

弥生時代 約 2,500 ～ 1,750 年前

地域ごとにそれぞれ特色のある土器が使われるようになった弥生時代後期の土器を、喜多見陣屋遺跡、堂ヶ谷戸遺跡の資料を中心に展示しています。



首長の台頭と大型墓の造営

古墳時代 西暦 250 ～ 700 年頃

前期から終末期まで各時期の住居で使われた土器と、古墳・横穴墓から出土した土器や玉類、石製品などの副葬品や埴輪を展示しています。



武蔵国のなかのせたがや

古代 奈良・平安時代 710 年～ 1185 年

多摩川流域の喜多見から二子玉川にかけて、そして瀬田のあたりに、奈良・平安時代の重要な遺跡が集中しています。



有力武家の出現と領地支配の様子

中世 鎌倉時代～安土桃山時代
1200 年代前半～ 1590 年

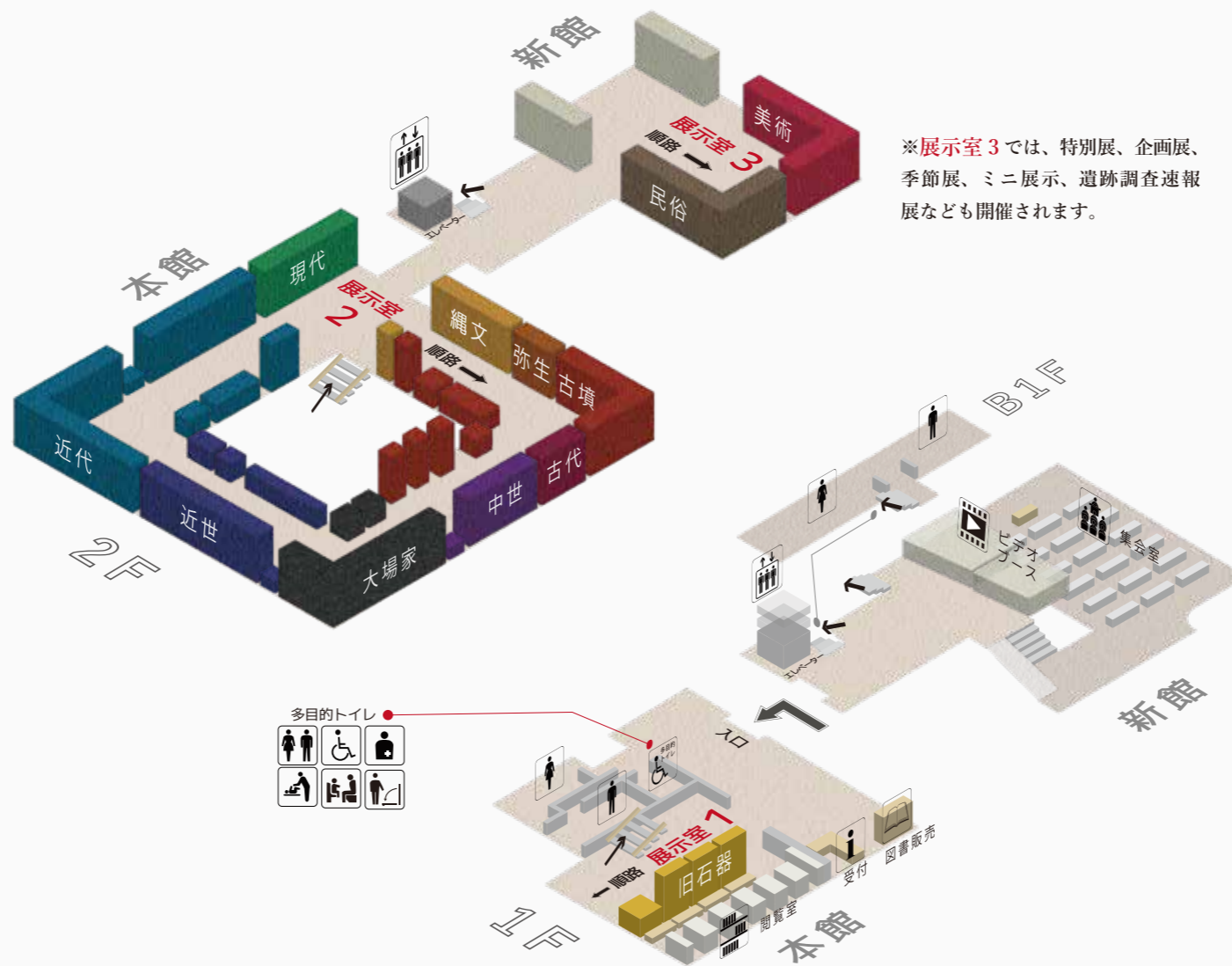
中世の世田谷は、木田見氏や吉良氏など、歴史に名を残す在地の有力武家が複数確認できます。



世田谷代官大場家の歴史

中世～近世

江戸時代半ば以降、彦根藩世田谷領 20 ヲ村の代官を務めた大場家の歴史や世田谷代官の仕事、代官屋敷について紹介します。



※展示室 3 では、特別展、企画展、季節展、ミニ展示、遺跡調査速報展なども開催されます。

世田谷の文芸

美術

江戸時代から現代までの、主に世田谷と関わりがある画家や文人などの作品・史料、また、区内の旧家や社寺に伝来した文芸分野の品々を展示しています。



受け継がれる形

民俗

世田谷でみられた衣食住、生業、年中行事、民間信仰など、人々の生活文化に関する資料を展示しています。



うつり変わる暮らし

現代 1945 年～

戦後、日本の経済は大きく発展しました。団地が建ち始め、電気・水道・ガスも整備され、生活道具は家電製品が主流になっていきます。



村から町へ

近代 幕末～昭和 1853 年～ 1945 年

江戸の近郊農村だった世田谷は、東京都市圏の拡大とともに町へと変貌し、昭和 7 年 (1932) には世田谷区が成立しました。



江戸近郊農村の姿

近世 1590 年～ 1867 年

江戸時代の世田谷には、40 余りの村がありました。巨大都市江戸の近郊農村だった世田谷の村の姿を史料や絵図から見ていきます。

